

カナエル C直貼り

施工のポイント

※施工については必ず、施工説明書に従って正しく施工してください。

木質床材

一般住宅

マンション直貼り

リフォーム向け

衝撃吸収床材

天然木フロア

化粧シートフロア

根太施工

二重床施工

捨貼り施工

防音・直貼り

直貼り

上貼り

框・式台

階段・手摺・室内はしご

内壁材

あかりサポート

ぬれ縁

ラスカット

構造用ハイベストウッド

P&C-MJ SYSTEM

設計・施工資料編

製品掲載ページ

142

フロア施工

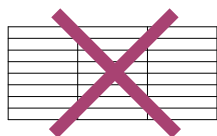
1 墨出しする

周囲の納まりを考慮し、貼始めの基準線を墨出ししてください。

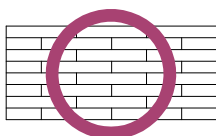
2 割付けする

貼り方は、「レンガ貼り」または「千鳥貼り」とします。**平行貼りは行わない**でください。

基準線に沿ってフロアを仮並べし、割付けに従って切断します。



平行貼り

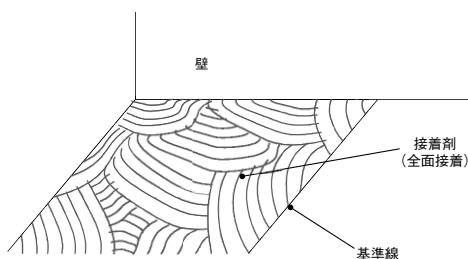


レンガ貼り

⚠ ●切断の際、壁とフロアに3～5mm程度すき間を設けてください。

3 指定の接着剤を塗布する

500～600g/m²を目安に接着剤付属のクシ目ゴテを用いて全面に塗布します。



⚠ ●『施工にあたっての注意』を参照し、必ず指定の接着剤を使用してください。

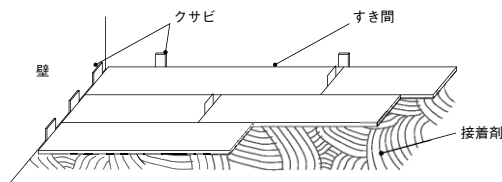
●接着剤が多すぎると、かん合部からはみ出すことがあります。適量を塗布してください。

4 フロアの施工

以下の手順番号に沿ってフロアの施工を行います。

①割付けしたフロアを基準線に沿って1列分施工してください。

施工ポイント③を参照し、フロアどうしを軽く突合わせるようにして、長手方向の継ぎ目すべて、短手方向の継ぎ目は2列おきに同梱のスペーサーを入れてください。



- 壁とフロアの間は3～5mmのすき間を空け、クサビ等でフロアが動かないようにしてください。
- フロアと壁のすき間は、巾木や見切り等をフロアの上にかぶせ、見えないように納めてください。
- かぶせ量の少ないソフト巾木は使用しないでください。
- 施工時は、かん合させるフロアをできるだけ近くにおき、ずらし量を少なくしてください。ずらし量が多いと接着剤溜まりができ、反り／突上げ等が発生します。
- フロアは無理に叩き込んだり蹴り入れしないでください。
- ゴムハンマー等を使用する場合は、フロア表面に色付着や叩き跡等がないことを確認してください。黒色ゴムハンマーや劣化したゴムハンマーは使用しないでください。
- スペーサーは、当日の施工終了後に取り除いてください。翌日には取れなくなることがあります。
- 接着剤がフロアの表面に付いたり、かん合部からはみ出した場合、乾いた布で速やかに拭き取ってください。硬化すると取れなくなります。

② 1列目と同様にして2列目以降を施工してください。



●施工中は1時間に1度、目すき／浮きがないことを確認してください。浮きが生じている箇所は重しを載せ、一晚放置してください。

③ 貼じまいのフロアを施工してください。また、フロアと壁のすき間はクサビ等で仮固定してください。



●クサビは接着剤硬化後、取除いてください。

養生

施工後は、工事完了まで以下に留意して養生してください。

- 表面にキズ／目すき／浮きがないことを確認してください。
- 工事完了までフロア用養生シート等で表面を十分に保護してください。
- 養生テープは床用養生テープを使用してください。
- 養生中、雨水等が養生シートにしみこまないようにしてください。
- 凹凸のある硬質の養生ボードは使用しないでください。
- 養生中、室内の換気は充分に行い、下地材やフロア等に結露等が生じないようにしてください。
- 養生部分に脚立や重量物を置く場合は、必ず養生の上に合板等を敷いてください。

カナエル C直貼り

施工のポイント

※施工については必ず、施工説明書に従って正しく施工してください。

施工ポイント ① 下地の含水率／不陸の確認

■コンクリート下地の場合

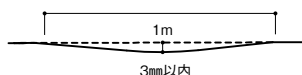
- 下地モルタルは最低3週間以上の乾燥期間をとり、含水率を10%以下にしてください。

【乾燥の目安】

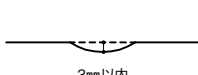
最も乾燥しにくい部分の下地表面に、1m×1m程度のポリシートの四周を布テープ(ガムテープ)止めにより被覆密閉し、24時間以上放置後、シート下のモルタル面が黒く変色しないことを確認してください。

- 下地が十分に乾燥し、平滑であることを確認してください。

▶緩やかな不陸
1mに付き3mm以内



▶部分的な不陸
深さ3mm以内で100cm以下



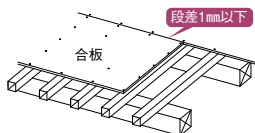
■木下地の場合

- 大引／根太／合板は、以下の含水率を満たす乾燥材を使用してください。

大引／根太：15%以下

合板：14%以下

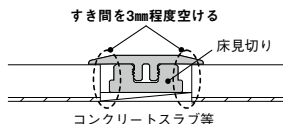
- 合板の継ぎ目部分に段差がないよう1mm以下に調整してください。



施工ポイント ② 長スパンで施工時の床見切り使用

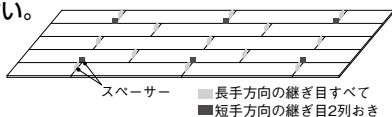
- フロアを長手方向に連続して8枚以上施工する場合、必ず8枚ごとにかぶせタイプの床見切りを使用し3mm程度のすき間を空けて施工してください。

玄関～廊下、リビングなど長スパンで施工する場合、リビング入口／ドア下にかぶせタイプの床見切りを使用してください。



施工ポイント ③ かん合部にスペーサーを使用

- フロアどうしを軽く突合わせるようにし、長手方向の継ぎ目すべて、短手方向の継ぎ目は2列おきに同梱のスペーサーを入れてください。



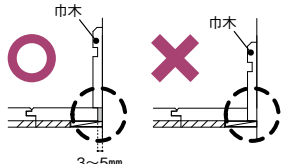
- 無理に叩き込んだり、蹴り入れたりしないでください。
- スペーサーは、当日の施工終了後に取除いてください。翌日では取れなくなることがあります。
- 床暖房を使用する場合、床暖房部分の短手はスペーサーを使用しないでください。

施工ポイント ④ 壁際のすき間確保

- 巾木はフロア施工後に取付けとして、クサビ／合板等を使用してフロアと壁際に3～5mmのすき間をあけて施工してください。



- かぶせ量の少ないソフ巾木は使用しないでください。



施工にあたっての注意

- 施工は、必ず以下のいずれかの接着剤を使用してください。

	品 目	使用量
指定接着剤	コニシ株式会社：KU-928R アイカ工業株式会社：アイボンJW-280PRO 株式会社オーシカ：セレクトィ UR-145	500～600g/㎡



- 施工中は、充分に換気を行ってください。
- 接着剤塗布後、15分以内にフロアを貼付けてください。また、一度に塗布する面積は5㎡以内にとってください。
- フロアの開梱は施工直前に行ってください。開梱後12時間以上放置すると寸法安定性を損ないます。
- 施工前に必ず仮並べをして、色柄の調和を見てください。極端に色／柄／品質の問題がある場合、お知らせください。(施工後における苦情／お取り替えについては応じかねます)
- 頻繁に水がかかる場所、湿気の多い場所には施工しないでください。
- 室温が5℃以下の場合、施工しないでください。接着剤の硬化不良が生じます。
- フロアの固定には、絶対に釘を使用しないでください。

下地施工

■下地を確認する

下地ごとに、フロア施工に適切な状態であることを確認します。

【コンクリート下地の場合】

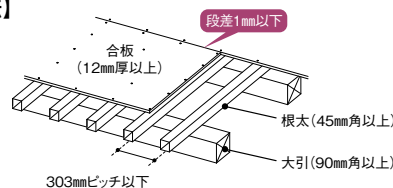
下地のゴミ／ホコリ等を取除き、清掃を行います。次に**施工ポイント①**を参照し、平滑で不陸がないことを確認してください。

【木下地の場合】

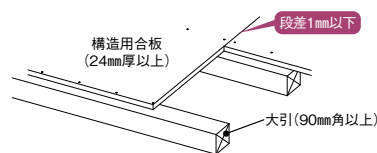
合板の短手継ぎ目部分は、必ず根太／大引上で行い2mm程度のすき間を設けてください。

合板／根太および大引の固定にはウレタン系接着剤を塗布しスクリューネールか木ネジを303mmピッチ以下で頭が出ないように打ち込んでください。なお、スクリューネール／木ネジの長さは合板の2.5倍以上、根太の場合は2倍以上としてください。

【在来工法】



【根太レス工法】



※メーターモジュールは構造用合板(28mm厚以上)



- 下地材が雨ぬれしていないことを確認してから施工してください。
- 大引／根太／合板は、**施工ポイント①**を参照し、指定の含水率を満たす乾燥材を使用してください。
- 根太は、必ず45mm角以上を使用し、根太間隔は303mmピッチ以下で平らに仕上げてください。
- ピアノ等の重量物を置く場合、根太本数を増やす等、下地補強をしてください。
- 根太組した面に段差がないことを確認してください。段違いを防ぐため根太は両面プレナー掛けしたものをご使用ください。

R-Design

C-Design

木質床材

一般住宅

マンション
直貼り

リフォーム
向け

衝撃吸収
床材

天然木
フロア

化粧シート
フロア

根太施工

二重床施工

捨貼り施工

防音・直貼り

直貼り

上貼り

框・式台

階段・手摺・
室内はしご

内壁材

あかり
サポート

ぬれ縁

ラスカット

構造用
ハイベストウッド

P&C-MJ
SYSTEM

設計・施工
資料編

製品掲載
ページ

142